

(改正後) 巨勢まちづくり計画・夢プラン

分野	ターゲット	目指す環境	Step1 目標/取組	Step2 目標/取組	Step3 目標/取組
地域景観・環境衛生	① きれいな巨勢町	巨勢公園の汚れやゴミのないまち。みんなが住みたいきれいなまちの環境をつくるため、町民全員が行動し、一步を踏み出します。	【目標】ポイ捨て「0」 ○若い世代の教養 ・学校、家庭、職場、幼稚園等 ○巨勢公園で大人も子どももやすらぎの場を ○イベントの計画・実施	【目標】ゴミ拾い運動 ○子どもと共にゴミ拾いに取り組む ○隣近所誘い合って取り組む	【目標】美化活動の継続 ○花を巨勢公園を中心に植える活動を展開する
			【目標】知り合う ○巨勢町や町区全体で触れ合う機会、場をつくる ○子どもの親同士、高齢者同士、親と高齢者のつながりを深める	【目標】動き出す ○支援するボランティア団体をつくる ○高齢者と子ども同士が教え合う企画をする(クラウドゴルフ、ゲーム、パソコン等) ○巨勢町や町区の行事の中で小中高生に役割を与え、活動してもらう	【目標】成長する ○町区の公民館がオープンハウスとして活用 ○巨勢町独自の支援体制づくり
子ども・子育て支援	② 子育て支援・子ども	安心できる子育てができるまち、老後も楽しい巨勢町。自治会や高齢者などを中心として、巨勢町独自の子育て支援を行い、子育て世帯の増加を目指します。 子育て環境NO1の町を目指し、この町に生まれてよかったと思える環境となる子育てプランを充実させます。	【目標】まず、知り合う ○巨勢町や町区の行事へ子どもから高齢者まで参加する ・食事会、敬老会、お祭り、花見、歓迎会等	【目標】一緒に取り組む ○スポーツ(クラウドゴルフ、ゲーム、ハイキング等) ○清掃ボランティア ○勉強会 ○体験活動	【目標】継続と発展 ○「ふれあい広場」づくり ・ボランティアの継続 ・学校施設の利用 ・リタイアしたシニアの活躍
			【目標】みんなで担う「安心」への一歩 ○独居高齢者を対象に、もしもに備えた「巨勢安心カード」の作成と推進を他の団体と協力し取り組む。 ○健康診断受診の啓発と健康寿命向上への意識を高める。	【目標】孤立させない置き去りにしない ○高齢者に伴う心身の不安、悩みを理解する。 ○向こう三軒両隣の助け合いの精神を再確認し共有する。 ○あらゆる世代にクラウドゴルフ、パークゴルフの参加を呼びかけ、親睦と交流の場を作る。	【目標】「互助」カアアップ ○「巨勢安心カード」の更なる普及 ○人と人とのつながりを実感でき、より深めるために誰もが集える場を多く設ける。 ○若い世代のボランティアへの関心を高め、支援する。
福祉・健康	③ 人にやさしい巨勢	人と人とのつながりから生まれる「安心感」のある町、老いても幸せな人生を実現できる町として魅力ある豊かな巨勢を創ります。 移動や外出に困難を感じる人(移動困難者)の期待に応え、買物や通院などができるようになることを目指します。	【目標】移動困難者のニーズ確認と事業スタート ○移動支援に係るニーズ調査 ○移動支援組織の確立 ○移動支援事業スタート	【目標】移動支援事業の広報、町民への事業趣旨の浸透、安定的運営 ○移動支援に係る広報活動 ○移動支援事業の財源確保による安定的運営	【目標】移動困難者のニーズ再確認に基づく事業の中・長期的方向性の整理、事業継続 ○移動支援に係るニーズ再調査 ○事業の中・長期的方向性整理 ○事業の継続的取組み
			【目標】移動困難者のニーズ確認と事業スタート ○移動支援に係るニーズ調査 ○移動支援組織の確立 ○移動支援事業スタート	【目標】移動支援事業の広報、町民への事業趣旨の浸透、安定的運営 ○移動支援に係る広報活動 ○移動支援事業の財源確保による安定的運営	【目標】移動困難者のニーズ再確認に基づく事業の中・長期的方向性の整理、事業継続 ○移動支援に係るニーズ再調査 ○事業の中・長期的方向性整理 ○事業の継続的取組み
地域資源・地域の宝	④ 行ってみたい巨勢のアレコレ	近隣の人たちが楽しみに集まって来るイベントを企画。町民全体で参加し活気あふれる巨勢町にする 巨勢町の歴史を知り、若い世代に継承していくことで住むまちを誇れる風土を育てましょう。巨勢町の歴史を体得できる機会があるまちづくりをしましょう。	【目標】レンゲ畑、コスモス畑を作る ○巨勢公園の南側300坪の土地で花畑を作る ・将来はジャガイモ、サツマイモ、玉ねぎを生産しカレーを作って食べる ・さらにそれをカレーショップにする	【目標】巨勢ブランドの作成。イメージキャラクターを作る ○せんべい、まんじゅう、クッキーなどを作り、コスモス畑で販売	【目標】野菜生産者のマップ作り ○野菜の直売もしながらマップを作る
			【目標】巨勢の歴史を発掘しよう。 ○文献、残存する資料から名所旧跡、歴史遺産を調べ、現地調査(聞き取り、写真撮影)をして、わかりやすい歴史資料をつくる。 ○巨勢町の名所旧跡や歴史遺産の位置を地図に記載した資料を作成する。 ○歴史探訪会・歴史巡検ウォーキング(仮称)などのための数種のルートマップを考案する。	【目標】巨勢の歴史を知ろう。 ○歴史専門家の講話を聴取し、巨勢町の歴史を深く知る。 ○「巨勢町ふれあい歴史マップ」(仮称)を作成し、巨勢町住民や小中学校の児童生徒に啓蒙啓発を行う。 ○名所旧跡や歴史遺産の説明パネルを作成・設置していく。 ○巨勢町に伝承されてきた民俗文化財(例:東分下地区の浮流)の現状と今後の継承・復興の可否を調査する。	【目標】巨勢の歴史を伝え、活用しよう。 ○巨勢町歴史巡検ウォーキング(仮称)を開催する。 ○歴史巡検に活用できるリーフレットを作成する。 ○浮立の継承・復興に向けて推進する。

活動分野のまとめ
→部会の構成と連動

⑤+⑨

「運営・企画」部会

②

「子ども」部会

③

「福祉・健康」部会

③

「移動支援」部会

⑥+⑦+⑧

「安心・安全」部会
(自主防災組織設置推進委員会)

①+④

「環境資源」部会
(歴史・文化継承委員会)

全体目標: みんなでつくる、住みよい巨勢(KOSE)

全体目標…みんなでつくる、住みよい巨勢（KOSE）

広報・情報発信	⑤ 知りたいことがわかる巨勢	誰でも簡単に使える情報のデジタル化を図ります	【目標】PC、携帯電話の活用 ○公民館活用（PC設置） ○つながる巨勢の活用（各部会よりライター管理者の選出） ○ライター講習会の実施	【目標】PC、携帯電話による情報の提供 ○各種イベントに参加（夏祭り・体育祭・文化祭等） ○ライターを中心に情報の提供を行う	【目標】PC・携帯電話による情報の活用 ○つながる巨勢の事を町民に周知徹底してその活用を図る ○広報誌の配布・活用と充実を図る ○役員間の情報共有の為、グループを作る（例えばLINEグループ）
	交通安全	⑥ 巨勢の交通安全 交通事故「0」を目指します。	【目標】地域での交通安全講習会の定例開催 ○警察署に要請して、定期的な講習会を開催する	【目標】交通安全指導の徹底 ○自主防災組織設置推進委員会とともに危険箇所マップを作成する ○危険箇所の立ち番 ○夜間のライト点灯	【目標】安全基盤の整備 ○カーブミラーの設置等 ○道路白線の補強等
防犯	⑦ 巨勢の安心を守る	巨勢校区民及び巨勢で勤務している人たちが安心して生活や勤務できるよう、「助け合い」や「連絡網」を始め、防犯体制を作っていきます。	【目標】防犯情報の共有 ○防犯情報の共有 ○緊急連絡網づくり(各自治会) ○更生施設の見学、体験学習	【目標】防犯対応策の検討 ○防犯機材整備検討 ○高齢者・認知症の方の情報確認手法の検討	【目標】防犯対応策実現への取組み ○防犯機材の整備や高齢者・認知症の方の情報確認手法の実現に向けた取組み
	防災	⑧ みんなで防災、強い絆が命を守る	【目標】校区内6自治会の防災組織設置 1 他防災組織を例に、校区自治会に防災組織をつくる。(全16自治会のうち未組織の6自治会を目標に防災組織設置の支援を行う。) 2 1と併せて校区自主防災組織について検討する。(各団体代表の委員にも独自の視点から防災組織との関わり方についてけんとうしていただく。) 3 その他、必要に応じ防災意識を向上させるため、防災講座、イベント等を行う。	【目標】校区内8自治会の防災組織設置 1 残る未組織自治会(8自治会)にも防災組織の設置を促し、支援を行う。 2 各自治会での防災訓練の必要性を認識していただくため防災講座、他自治会の訓練視察、イベント等を行う。 3 他校区の自主防災組織を参考にして巨勢校区の組織づくりをする。 4 3に関連し、防災関係積立金の使途を検討する。 5 校区自治会及び校区の防災マップ原案をつくる。	【目標】自治会単位、校区全体の防災体制構築 1 町区自治会の自主防災組織及び巨勢校区の自主防災組織を設置し、自治会単位又は校区全体での防災体制を構築する。 ※ 校区自治会の防災組織は独自に活動を行い(その際、支援が必要な場合は当会が支援する)、また、校区の防災組織ができあがれば新たな役員体制の下で活動が行われる。
地域運営	⑨ 魅力ある団体と思われるには	時代にマッチした団体への変革、高齢化社会の中で役員の高齢者と若手のバランス、若手役員の育成を図ります。	【目標】60歳以下若手の人材発掘 ○小・中学生の保護者との接触(PTA・子ども部会) ○地区自治会からの紹介をもらう ○広報紙の発行により、活動への取組に興味を持たせる	【目標】60歳以下若手の人材育成 ○高齢者とのコミュニケーションの機会を設ける(年3回目標) ○若手が取り組みやすいスケジュールの導入(土曜、日曜、祭日等を中心に) ○若手とのコラボ行事の継続(にわか劇・こども会の行事等)	【目標】60歳以下若手の人材活用 ○地域行事及び活動に参加 ○若手の人が考えたイベントの導入(若手だけのイベント)(高齢者とコラボしたイベント) ○全部会を横断的に活動できるような若手だけの部会を作る(例えば青壮年活動部会)

(令和3年5月21日改正)